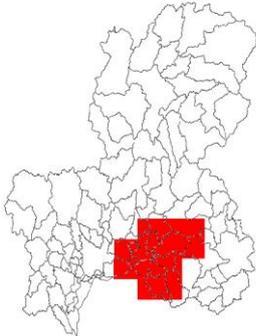


ヒメオトギリ		<i>Hypericum japonicum</i> Thunb.	絶滅危惧Ⅱ類
			オトギリソウ科
選定理由	生育適地の湧水湿地は開発や自然遷移により減少が著しい。		<p>写真(大塚英樹)</p> 
形態の特徴	茎は高さ5-50cm、直立し4稜形で無毛。葉は三角状卵形で、円頭で基部は茎を抱き、多数の小さな明点がある。花は小型で直径6-8mm、茎や枝先に花序をつくる。苞は線状披針形で、茎葉より明らかに幅が狭い。		
生態的特徴	オトギリソウ科の1年草。花期は6-8月。湧水湿地を特徴づける種のひとつ。湧水湿地は、低温で貧栄養、裸地状になっているなどの特徴があり、このような環境に適応した種が生えていて、貴重な種が数多く分布している。		
分布状況	本州千葉県と東海地方から沖縄に分布し、中国大陸からマレーシアなどにかけての暖帯、熱帯に広く分布する。岐阜県では県東南に見られる。		
減少要因	近年ベッドタウンとしての宅地開発が顕著で、生育する湧水湿地そのものが失われつつある。また、自然遷移の進行によって、裸地状の湿地が森林になりつつあるところも多くあり、湧水湿地が減少している。		
保全対策	生育環境の湧水湿地そのものを保全する。大規模な宅地造成などの工事の回避。自然遷移が進み、森林化がみられるときは、湿地の周辺の樹木やササ藪の伐採などの対策が有効である。		
特記事項			
参考文献	原色日本植物図鑑・草本編Ⅱ 保育社 1961 日本の野生植物草本Ⅱ 離弁花類 平凡社 1982		

文責:福岡義洋